

よい会社をつくろう よい経営者になろう よい経営環境をつくろう

2

February
2024

山形県中小企業家同友会

月刊 同友 やまがた



2024新春交流会



よい会社 よい経営者 よい経営環境をゆびさす
中小企業経営者の全国組織

2023年度スローガン

人を生かす経営の実践で

新時代にチャレンジしよう

酒田で
初開催

地域の為、社員の為 共に学び合う



1月19日、「2024新春交流会」が酒田市のル・ポットフーにて開催され、約270名が参加しました。今回は庄内支部の役員を中心とした実行委員会が一丸となり「酒田市でリアル開催」にこだわって準備を進めました。

冒頭、挨拶に立った後藤代表理事は「酒田市での新春交流会の開催は初めてのこと。そんな中で各企業の社員さんやゲストの方も含め、多くの方々にご参加いただき、ありがとうございます」と述べ、『21世紀型企業』や『人を生かす経営』に触れながら、「庄内地域に同友会運動が益々広がり、地域社会が発展して欲しい」と語りました。

続いて来賓を代表して山形県庄内総合支庁 支庁長 村山朋也氏より「コロナ禍を経て、再び酒田港へクルーズ船が入港するようになり、日本ご当地ラーメン総選挙で酒田のラーメンが日本一に輝くなど、地域経済回復の兆しが見えてきた。中小企業家同友会にはこれからも地域社会の活性化にご協力いただきたい」とご挨拶をいただきました。



記念講演では「絆徳経営のすゝめ～衰退地域でも生き抜くビジネスの秘訣～」をテーマに、経営者や起業家へのセミナーやコンサルティングを行っているラーニングエッジ(株) 代表取締役 清水 康一郎氏からご講演をいただきました。

清水氏は、20世紀の経済合理性のみを突き詰めた経営から転換しなければならないとし、相手によりことをする

ことによって、ずっと一緒にいられる絆を結ぶ『絆徳経営』の必要性を説きます。そのような関係性を社員やお客様と築いていく為には、相手がどんな人で、何を求めているのかを考え続けることが重要であり、それによって事業が成長していくと提唱。人事においても、今までの労使対立を前提とした互いを見つめる人事から、共通の目標やルールを持ち労使が同じ方向を向く『絆徳の人事』へ転換することで、社員とともに働く幸せを実現できると語りました。

そして現代は「きれいごとが経済合理性を生む」ようになったとし、広告代理店等を通じた一方的な情報発信が信じられていた時代から、SNSの発展によって相互の情報発信が普通になったことで、本気できれいごとを実践している会社しか生き残れなくなったと指摘。マーケティングにおいてもお客様を理解し、理念や商品価値を社員全員が発信できるよう言語化して共有した上で仕組み化する必要があると訴えました。

引き続き行われたグループ討論では、「お客様、社員、地域社会に対して、どんな『良いこと』をして絆をつくりませんか？」をテーマとして、グループごとにお客様、社員、地域社会の中から中心となる話題を選び、それぞれ絆を生むために何をすべきか考え合いました。

懇親会は佐藤 栄司実行委員長より「地域の為、社員の為にみんなで勉強して、山形を良くしていきましょう」との挨拶の後、酒田商工会議所 副会頭 村上 浩氏より来賓挨拶があり、鶴岡信用金庫 常務理事 工藤 海蔵氏の乾杯で始まりました。山形支部、青年部の行事PRなども行われ懇親を深めた後、大泉 拓也第40回定時総会実行委員長の中締めにて、盛会のまま閉会となりました。

採用計画を持って新卒採用に取り組もう

1月11日、共同求人委員会主催「新卒採用オリエンテーション」が、TISカンファレンスセンターに於いて開催され、会場とオンラインを合わせて49名が参加しました。

冒頭、挨拶に立った佐藤啓共同求人委員長は「人が辞めたから採用するという、補充のための中途採用は難しくなっています。また人口が減少している山形県においては、若者が県外に流出し、高卒をはじめとした新卒採用も厳しさを増しています。そんな中で、我々はどうのように採用していくかを考えながら、みんなで取り組んでいくのが共同求人活動です。現状を認識しながら、計画を立てて進める必要があります。一社でやれないことは、みんなの力でやっていきましょう」と述べました。



続いて、やまがたリクルーティングサポート代表・前盛直人氏(共同求人副委員長)が、高校生や大学生の進路にかかわる一般的傾向と大卒採用の流れとポイントなどについて、説明しました。

前盛氏は、今年度の県内中学校の卒業生数は9159人で、少子化により2034年には6760人となると県教育委員会より公表され、今後も高校生は減少し続けていくこと、また学校基本調査では令和5年3月の県内高校卒業生数は8767名で前年より231名減少し、就職者はその内の2152名(24%)、大学進学者は4282名(49%)、専修学校等進学者が2124名(24%)、県内就職者は1710名で前年より約110名減少している現状から「少子化で各種支援制度も出来ており、大学進学率がさらに高まることが予想され、高卒採用はますます難しくなり、今から対策を構築していかなければならない」と語りました。

そして、大卒採用の基本的な流れとして、企業の広報活動、学生の就職活動が解禁となる3月1日より合同企業説明会や企業へのエントリーが始まり、6月から採用試験、

10月から内定というルールが形骸化していると指摘。今は三年生から本格的な就職活動が始まり、インターンシップという名のもとに会社説明が行われ、学生はいろいろな企業に参加して、情報収集や企業研究を行っていることや、企業研究活動を代行する会社やオファーシステムなどを利用している学生も出てきていることを紹介しました。

その上で、大学生の就職観は変容してきているとし、「どうすれば社会のために役に立てるかという『社会貢献』に敏感」「自分の存在がどう社会の役に立つか、みんなと喜びをシェアしながら働きたい」といった傾向がある反面、「親と共に就活する割合が高く、その影響もあり、大手企業への就職や公務員になりたいという安定志向が強い」「いつ会社がなくなるか、自分が見捨てられるかという危機感を抱き、スキルを磨き続けたい」「ワークライフバランスをかなえられる企業を選ぶ」「両立のためにバックオフィスの仕事を選ぶ」といった傾向があることを挙げ、自己実現期待度と安定・安心志向度が高く、積極志向度が低い傾向にあることを説明しました。そして、「一般的に企業が求める人材とは逆とも言える傾向が出ている。企業としては、求める人材に向けて自社に合ったスタイルで、年数をかけて計画的に取り組む必要がある」とまとめました。

参加者からは、「初めての試みなので学びが多くありました。現実を知り、ショックを受けたと共に社内体制の再確認と明確化が重要と感じた」「学生が求めていることを改めて知ることが出来ました。会社説明会では、そのポイントを押さえたアプローチをしていきたいと思った」「保護者向けの就活セミナーや会社見学会が行われていることを初めて知りました。学生にとって合説の価値が低下している中で、学生に何を伝えるのかを見直したいと感じた」「課題が浮き彫りになり、とても参考になった。社内整備をすることと、やり続けること。一つ一つ課題をクリアしていきます」といった声が寄せられました。



先月号に引き続き、会員のハンズバリュー(株)島田慶資氏から、中小企業・小規模事業者向けのデジタルトランスフォーメーションについて詳しくご紹介いただき、その真の意義と正しい取り組み方について考えます。



新年、明けましておめでとうございます！
ハンズバリュー株式会社の島田慶資です。
中小企業・小規模事業者の正しいデジタルトランスフォーメーション(以降、DX)についての取組を学びましょう！

DXの基礎から応用へ

前回の寄稿では、デジタルトランスフォーメーションの前提条件として、**デジタイゼーション**と**デジタライゼーション**の必要性について共有しました。デジタイゼーションは業務の電子化を、デジタライゼーションは業務の全体最適化を意味していましたね。DXは、業務の電子化や全体最適化を基盤として、デジタル技術やデータを活用し、企業の競争力を高めるための最終段階です。

今回は、自社がどのようにDXを実現するか、その具体的な方法について一緒に学びましょう！筆者がお客様に提案している「DX推進計画書」を基にお話しします。

DX推進計画の構成を大公開！

自社のDXを検討するための「DX推進計画」は、次の構成を大公開します。

① 決意文

『自社がDXに取り組む目的と意義』について、社長の強固な決意を示します。DXが自社にとって何を意味するのか、そしてそれがなぜ重要なのかを明確に表現します。

② 経営理念

DXは技術の導入以上のものです。『会社の基本的な価値観を踏まえた上で、DXを進めることの重要性』を強調します。DXの推進は、経営理念と密接に結びついています。経営理念を基軸として進めるべきです。(どうです！同友会らしいでしょう！)

③ 現状(As Is)と目指すべき将来像(To Be)

現在の業務状況とDXを実施した後の理想的な状態を『具体的に書き出します』。

お客様の特定、顧客ニーズ、自社の強みとノウハウ、そして事業定義を表現してください。DXによってどのように事業が変容するのか、全体的な視点で考察します。

④ DX構想の裏付け

『目指すべき未来への成長ストーリー』を描きます。表現方法は事業者様ごとに異なり、フローチャート形式で表現する場合もあれば、小説のように物語性を持たせる場合もあります。重要なのは、DXによる成長過程を分かりやすく伝えることです。

⑤ 数値計画

DXの成功を測るためには、先行指標と遅行指標という二つのタイプの数値目標を理解することが重要です。【遅行指標】は過去の成果を示す指標です。例えば、「売上高」や「当期純利益」がこれに当たり、DXが既に企業の成果にどのように影響を与えたかを示します。【先行指標】は、将来の成果を予測する指標です。これには「お客様満足度の変化」などが含まれます。DXの影響がこれからどう現れるかを予想します。先行指標を言い換えれば予兆の指標ですね。DXの目標設定では、指標をバランスよく使用します。

⑥ DXシステム構想

『目指すべき未来像を実現するためのデジタル技術やシステムの概要』を表現します。

システムの導入だけでなく、組織変更や業務フローの大幅な変更も必要となることが多いです。事業者様によっては、この構想を詳細に記述するためにページ数を増やすこともあります。

⑦ 現状分析

『現在の業務プロセスやシステムの詳細な分析』を行い、DXを実現するための強みとなる要素を特定します。業務分野ごとに課題や困りごとを洗い出し、その整理によって実施すべき項目を明確にします。事前に現状分析の方法を説明し、チーム全員が課題や困りごとを持ち寄り、整理することが推奨されます。

⑧ 実施項目の検討

『DXを実現するための具体的な施策』を検討し、優先順位を設定します。効果の質(競争力強化/生産性向上)と実行難易度(容易/困難)を基準にして項目を分類し、スケジュールも考慮しながら優先順位を決定します。

⑨ スケジュール

『プロジェクトのタイムライン』を設定します。実施項目ごとに月ベース、半年や期ごとのスケジュールを決定します。場合によっては、中長期計画を組み合わせます。DXの実現は一年では完了しないこともあります。長期的な視点も重要です。

⑩ 体制

『プロジェクトを遂行するための組織体制や役割分担』を明確にします。

関係者全員を巻き込むことが重要で、ベンダー、社内関係者、場合によっては取引業者も含めた体制を構築します。DXは企業内部だけでなく、外部との協力も必要となるためです。

『DX推進計画の構成』について詳細にご紹介しました。企業におけるDX推進の重要性を理解いただけたでしょうか。DXは、単に新しいシステムを導入すること以上の意味を持ちます。

お客様を中心に据えた企業競争力の構築において重要な役割を果たします。したがって、これは単なるITシステムの刷新にとどまる計画ではありません。企業としての方向性や、持続的な強みをどのように構築するかについて、深く考察する必要がありますね。

「DX推進計画書」は、デジタル化によって実現可能な競争力の向上と、長期的なビジョンの実現に向けた重要な一歩を踏み出すことができます。指針書にも要素を取り込んでいただければ、より夢あるビジョンが描けるのではないかと考えております。

本質的なDXの実務を知るための場があります

県産業技術振興機構が今月16日に実践企業の成果報告会を開催、山形同友会でも8日にセミナーを開催するなど、DX実践を学ぶ場も増えています。DXにこれから取り組みたい山形県内の事業者様にはぜひ参加して学びを深めてほしいと考えています。自社のDX推進について深く理解し、活用することで、さらなる成果を期待できるでしょう。次回にお会いするまで、ハンズバリュー株式会社の島田慶資でした。

2月例会のご案内

山形支部

仲裁役から見てきたもの ～社員さんとのコミュニケーション～

2024.2.27(火) 17:30～20:00

場所: 遊学館 第一研修室&zoom

山形市緑町1-2-36 ☎023-676-7182

報告者: (株)アキバナーセリー 代表取締役 秋葉卓哉氏

昨年、父親から事業承継した秋葉社長の目指す会社の姿は、バラを通じ「信頼される会社」。しかし、社員間のコミュニケーションを円滑にするのは容易ではないことを痛感。信頼関係を作るために、ではなく、何をすれば信頼してもらえるのか、そこから何が生まれるのかを日々社員との「仲裁役」として学んでいます。幸せになるために楽しく働きたい。という現場の声に応えるために社員コミュニティーに自ら入り、丁寧に向き合う中で少しずつ信頼が生まれ、話しかけてくれる社員さんが増えだしています。積極的に社員に関わる秋葉社長の報告から、信頼される秘訣を学びましょう！

さくらんぼ支部

採用をあきらめないで ～はじまりは求人票 採用力を高めよう～

2024.2.22(木) 16:15～18:45

場所: まなびあテラス&zoom

東根市中央南1丁目7-3 ☎0237-53-0230

講師: 社会保険労務士法人ルート企画 代表社員 菊地仁士氏

うまく採用ができないと悩む経営者の方が増えている一方で、菊地社労士のところには採用してみたら戦力にならなかった、問題社員だったという相談も増えつつあるといえます。その原因は一体どこにあるのでしょうか。面接の限られた時間で人の本質を見抜くのは難しいとも言えますが、何のために採用するのか、自社がどんな会社なのか、自社に合う人はどんな人なのか明確な答えを持って採用活動にあたっているのでしょうか。その求人票に会社の想い・願いは載っていますか？

採用は、自社の5年後、10年後を共につくるパートナーを自社に迎入れるためのスタートライン。スタートラインにつくためには「自社を知る」「社員目線」「魅せる求人票の書き方」…など様々な準備が必要不可欠です。採用力を上げるためにそもそも何が必要か、採用の基本の「き」を共に考えてみませんか？

庄内支部

忙しければ儲かると思っていた ～かんちがいに気付き、これからの自社の向かうべき姿とは?～

2024.2.28(水) 18:30～21:00

場所: マリカ東館 第2研修室&zoom

鶴岡市末広町3-1 ☎0235-23-2200

報告者: ヘアサロンtoccare 代表 辻佑輔氏(寒河江支部)

祖父が開いた承継予定の理容室がありながらも、28歳で自分の理容室を開業した辻氏。理容室に必要なのは、スタッフとそれぞれの技術と考え、代表自ら先頭に立ち、新たな技術や知識を得ながら社員教育や、働きやすい環境づくりにも取り組んできた。

しかし、思うような利益の確保や社員育成につながらないことから「経営指針をつくる会」の受講を決意。そこで経営理念を中心に、経営計画をつくり、改めて数値計画の重要性を学び、現在も経営計画の実践に取り組むとともに、事業領域の中で、新たな挑戦も始めている。辻氏の報告から、経営指針の重要性と事業領域における新たな取り組みについて考える。
※お車でお越しの場合は駅前マリカ立体駐車場をご利用ください。

寒河江支部

いよいよ始まる 労働条件明示制度改正と会社を守るポイント

2024.2.9(金) 18:30～20:30

場所: 寒河江市技術交流プラザ

寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

講師: 小座間みき社会保険労務士事務所 小座間みき氏

寒河江支部2月例会は、小座間みき社会保険労務士事務所小座間みき氏より、2024年4月より改正される労働条件明示のルールを中心に、雇用契約についてお話をいただきます。実際に説明を受けながら労働条件通知書を記入し、変更点や注意点を実践的に学びます。

雇用契約をきちんと交わすことで仕事の指示がしやすくなり、トラブル防止にもつながります。この機会にルールを改めて確認し、来たる改正に備えましょう。

皆様ぜひお誘いあわせの上ご参加ください。

置賜支部

地域密着工務店 ～未来の顧客のつくり方～

2024.2.22(木) 18:00～20:30

場所: 伝国の社&zoom

山形県米沢市丸の内1丁目2-1 ☎0238-26-8001

報告者: (株)本多建設 代表取締役 本多作之助氏

株本多建設は顧客を尊重するという想いと、家を建てるだけでなく建てた後も関わり続ける「家まもり」を大切に、地域に根差した工務店として50周年を迎えました。

地方の人口減少が進む現代において本多氏は「地域の中で顧客を増やし、育てていく必要がある」と語ります。『本多建設夏祭り』や『とくまちマルシェ』などの自社の駐車場でイベント開催、古民家再生・空き家問題への取り組みは地域に大きな貢献をしているだけではなく、未来の顧客、未来の仕事、そして従業員の成長につながっています。

顧客と地域を大切にすることで自社の未来をつくっている本多氏の取り組みから、新たな顧客をつくるために何をすべきかを学び合います。

皆さまお誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

新庄最上支部

愛する農業、愛する大蔵 ～農業を通して学んだこと～

2024.2.19(月) 18:30～21:00

場所: 新庄市民プラザ第5研修室&zoom

新庄市大手町1-60 ☎0233-22-4200

報告者: いげたに農園 代表取締役 伊藤貴之氏

「山形で一番小さい村」大蔵村でコメや名産品のトマトを生産するいげたに農園。社長の伊藤氏は大蔵村農業後継者の会「メンズ農業」の立ち上げメンバーとして、若手農家につながる場を作ることで、共に育ちあい、助け合う関係づくりに取り組んできました。また、JA おいしいものがみトマト部会の会長も務め、「稼げる農業」としてのトマト栽培を実践するとともに、農業を通じた食育、農福連携、視察受け入れにも積極的に取り組んでいます。

昨年には大蔵村議選に出馬し見事当選。農家と政治家を両立させる形で地域づくりに取り組み始めています。

伊藤氏の報告から、最上地域の経営者としてなすべきことを学び合います。ぜひお誘いあわせの上ご参加ください！

■開会挨拶

後藤代表理事より「新年早々発生した災害や事故を目の当たりにして、BCPの大切さを感じた。皆さんもBCPを整備し、すでに作成している企業は再確認をしていただきたい。先日、同業社から一気に退職者が出てしまい、受けた仕事をやりきれないで手伝わって欲しいと連絡があった。能力以上の受注が来た場合どうするか、BCPの一環として考える必要があると思う。また1月5日号の中小企業家しんぶんには菅原代表理事が載っています。まだの方は読んでいただきたい。今月には新春交流会もあるので、盛り上げていきましょう」と挨拶がありました。

■学習会

小川副代表理事が、「企業変革支援プログラムVer.2」の活用について、自社の取り組みを交えながら報告し、社員と共に現状を把握して課題を抽出するために活用することを提起しました。

■報告事項

1)2023年度12月月次報告

矢作事務局長より報告がありました。

■承認事項(入・退会承認) 1名退会 467名

■討議事項

議題1:会員増強の取り組みについて

1)組織委員会の報告

菅原代表理事より組織委員会の報告として、各支部・委員会の先月の取り組みの共有、今期目標まであと20名となり各支部で3月まで具体的なアクションプランを立て理事も協力しながら目標達成していくこと、10年ビジョンプロジェクトについても振り返りを行ったことが報告された後、下記の同友会を知る会の予定を確認しました。

日	時	会場	歴史と理念	体験報告
1月30日(火)	13:00	同友会事務局	菅原代表理事	中村明美
2月19日(月)	15:00	同友会事務局	後藤代表理事	原田由理子
3月22日(金)	15:00	同友会事務局	菅原代表理事	五十嵐 裕

議題2:第40回定時総会に向けての議案作成について

第40回定時総会までのスケジュールを確認した後、川合代表理事より役員選考についての予定と選考委員選出の依頼、役員公募期間を2月19日(月)~3月1日(金)にすることが提案され、承認されました。40周年記念事業の実行委員長は小川副代表理事が担当し、2026年1月に40周年記念式典を開催することが報告されました。

2023年度の活動の振り返りの骨子案が川合代表理事より提案があり、意見集約をすることとなりました。続いて、菅原代表理事が中小企業をめぐる情勢について報告した後、2024年度スローガンと重点課題について、意見集約を行いました。

議題3:第20回経営研究集会のまとめ

野口理事が、協力のお礼を述べた後、まとめと収支報告を提案し、承認されました。

議題4:2024新春交流会について

佐藤(栄)理事が、参加申し込み者数と準備状況について報告後、参加を呼びかけました。

議題5:第40回定時総会

大泉理事より1月12日に第1回実行委員会を開催し、次回理事会に予算などを提案すること、講師の森山氏と2月20日、21

日に打ち合わせを行う予定となっていることが報告されました。

議題6:令和6年能登半島地震の支援について

後藤代表理事より、1月1日に石川県能登地方を中心にM7.6の地震が発生し大きな被害がでていることから、中同協では危機管理・災害対策本部を設置し、全国の同友会に支援活動の取り組みを呼びかけていく予定となっていると報告した後、山形同友会としても支援金を募る取り組みを提案し、承認されました。

■その他

1)今後の予定について

- ・1月11日(木) 新卒採用オリエンテーション (TISカンファレンスセンター)
- ・1月12日(金)~13日(土)中同協第3回幹事会(東京)
- ・1月13日(土)北海道・東北ブロック代表者会議(東京)
- ・1月18日(木)~19日(金)第2回中同協経営労働委員会(東京)
- ・1月19日(金)2024新春交流会(ル・ポットフー)14:30~
- ・1月29日(月)経営環境分析実践講座 (TISカンファレンスセンター)18:00~
- ・1月30日(火)第28期経営指針をつくる会再発表 (同友会事務局)15:00~
- ・2月8日(木)就職懇談会(山形テルサ)14:00~
- ・2月8日(木)DX学習会 (TISカンファレンスセンター)18:00~
- ・2月9日(金)第2回中同協共同求人委員会(東京)13:00~
- ・2月27日(火)中同協・第2回女性部連絡会(Zoom)13:00~
- ・3月7日(木)~9日(金)第54回中小企業問題全国研究集会in三重
- ・4月2日(火)合同入社式・新入社員研修(ビッグウイング)9:00~

2)今後の常任理事会と理事会日程について

第10回常任理事会	2月7日(水)16:00	第10回理事会	2月14日(水)15:00
第11回常任理事会	3月6日(水)16:00	第11回理事会	3月13日(水)15:00
第12回常任理事会	4月3日(水)16:00	第12回理事会	4月10日(水)15:00

■閉会挨拶

半澤専務理事より「年明け早々、災害やそれに伴う航空事故がありました。私たちにもいつどんなことが起こるか分からない。不測の事態に対応できる体制づくりをしていかななくてはならない。今年一年、元気で最高の年にしていければと思います」と挨拶がありました。

会員変更

●愛和建设(株) 代表取締役 横山隆太氏

⇒ 早坂幸恵氏

経営企画部課長(山形支部)

●(株)エム・エス・アイ 営業本部長 向田徳之氏

⇒ 執行役員営業本部長(山形支部)